

作品ID	書名	内容	所有	出版社
118	幻の声	町方同心の下で働く伊三次は、事件を追って今日も東奔西走。江戸庶民の人間関係をきめ細かに描いた珠玉の五話。オール讀物新人賞		文春文庫
119	紫紺のつばめ	材木商伊勢屋忠兵衛からの度重なる申し出に心揺れる、深川芸者のお文。一方、本業の髪結いの傍ら同心の小者を務める伊三次は、頻発する幼女殺しに忙殺され、二人の心の隙間は広がってゆく...。別れ、裏切り、友の死、そして仇討ち。世の中の道理では割り切れない人の痛みを描く人気シリーズ、波瀾の第二		文春文庫
	さらば深川	「この先、何が起ころうと、それはわっちが決めたこと、後悔はしませんのさ」 誤解とすれ違いを乗り越えて、伊三次と綾子を戻した深川芸者のお文。後添えにとの申し出を袖にされた材木商・伊勢屋忠兵衛の男の嫉妬が事件を招き、お文の家は炎上した。めぐりくる季節のなか、急展開の人気シリーズ第三弾		文春文庫
120	さんだらぼっち	芸者をやめたお文は、伊三次の長屋で念願の女房暮らしを始めるが、どこか気持ちが心許ない。そんな時、顔見知りの子供が犠牲になるむごい事件が起きて。掏摸(すり)の直次郎は足を洗い、伊三次には弟子が出来る。そしてお文の中にも新しい命が。江戸の季節とともに人の生活も遷り変わる、人気捕物帖シリー		文春文庫
121	黒く塗れ	著者がデビュー以来書きついできた「髪結い伊三次」シリーズも、この本で五冊目になります。廻り髪結いと深川芸者との身分違いの恋も、様々な出来事を経てついに祝言をあげ、子供にも恵まれました。本職に、捕物に、相変わらず忙しい日々を送る伊三次。一方、思いがけず身籠もって子供を生んだお文は喜びと戸惑いが半々といった様子です。二人の暮らしから、ますます		文春文庫

122	君を乗せる舟	おなじみ人気捕物帖、シリーズ第6弾の登場です。伊三次が仕える北町同心、不破友之進の息子が元服し、龍之進と名を改めて見習い同心に。伊三次に髪を結われ、意気揚々と出仕する龍之進は、若き朋輩たちと「八丁堀純情派」を結成するのですが、そんな彼らの前に、江戸の町を暴れまわる本所無頼派の影が立ちほだかります。少年たちの成長と挫折、そして淡い恋心...	文春文庫
-----	--------	--	------